

【10】 修得すべき知識能力

(2) 大学院

社会文化総合研究科

発達・教育臨床論コース

「履修モデルA」教育関係分野

日本を中心に教育に関する思想の研究を通して、教育現場における教育者の態度や学級経営の在り方、授業づくりの基本的姿勢についての理論的で臨床的な理解を深めます。

主要科目：教育思想史特論

特長：教育実践およびそれを支える教育思想の歴史的展開を実証的に検討します。教育者の思想及び実際の教育実践を動的に捉え、それが教育的な働きかけの場面でダイナミックに適用されていることを理解します。

科目の目標：動的な教育課程について、その理論的思想的な枠組みを理解します。その上で、歴史的な実践や教育思想を読み解きながら実践の流れを把握し、臨床場面の課題について考察できるようめざします。

「履修モデルB」生涯学習分野

日本および諸外国における生涯学習の思想、原理と実践的、臨床的な学習理論と、プログラミングの具体的なノウハウを学び、さらに高度なスキルの獲得をめざします。

主要科目：生涯学習論

特長：教室での座学だけでなく、隣接自治体やボランティアグループ、市民運動団体（NPO）の協力を得て、生涯学習の現場を参与観察し、意見交換をします。

科目の目標：公的社会教育の理念と法制、地域における達成について、一定の理解をもち、今後のあり方について、各自のビジョンが描けるようめざします。市民主体の学習を通じた問題解決能力の修得についても、実践的な理解を深めます。

「履修モデルC」療育福祉分野

「障害」について、その特性や発達支援に限定せず、家族・児童虐待・子育て支援・教育・福祉サービス・障害文化など関連する領域について幅広く網羅し俯瞰的に検討します。また、ミクロメゾマクロの多次元の視点から理解を深めます。

主要科目：療育福祉特論（発達臨床心理学）

特徴：「発達」や「障害」「家族」を自明視せず、社会との関係、歴史の中での位置づけを考察しながら理解を深めます。また、専門療育機関の見学などを通して実践現場の今日的課題にも迫ります。

科目の目標：障害という問題を個人－家族－地域－法制度－社会的言説という複合的な観点から課題をアセスメントし、支援のプランニング、インタベンションの方法まで、支援プロセスを明示できることをめざします。